

2022年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年4月14日

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL https://www.ams-life.co.jp/

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂 TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2022年4月14日 配当支払開始予定日 2022年5月16日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第2四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第2四半期	11,188	—	450	—	642	—	307	—
2021年8月期第2四半期	9,150	15.9	1,016	79.7	1,026	80.8	734	108.2

(注1) 包括利益 2022年8月期第2四半期 297百万円(△60.4%) 2021年8月期第2四半期 752百万円(105.3%)

(注2) 今期より、新収益認識基準を適用しております。

売上高及び利益面において影響が生じるため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

なお、従来の会計基準の場合の売上高は、16,161百万円(対前年同四半期比176.6%)であります。

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第2四半期	21.84	21.71
2021年8月期第2四半期	52.83	52.70

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第2四半期	35,891	12,659	33.1
2021年8月期	35,752	12,660	33.1

(参考) 自己資本 2022年8月期第2四半期 11,883百万円 2021年8月期 11,827百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	—	12.50	—	15.00	27.50
2022年8月期	—	15.00			
2022年8月期(予想)			—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,500	—	1,000	—	1,300	—	650	—	46.34

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

(注2) 今期より、新収益認識基準を適用しております。

売上高及び利益面において影響が生じるため、対前期増減率は記載しておりません。

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年8月期2Q	14,387,699株	2021年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2022年8月期2Q	362,594株	2021年8月期	196,594株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年8月期2Q	14,072,114株	2021年8月期2Q	13,901,730株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、新業態への進出による経営の多角化と自社グループ内に様々な業態を持つことにより、自社グループ内で全てを完結する複合企業体を目指しております。昨年5月26日に株式会社さいか屋を、昨年6月1日に株式会社なすびを連結子会社化いたしました。また、昨年3月30日に株式会社エーエフシー不動産を、昨年10月1日に株式会社AFC建設を新設いたしました。

業績につきましては、連結子会社が増加したことに加え、医薬品事業の売上高が前年同期を上回る結果となり、連結売上高は11,188百万円となりました。一方、損益面につきましては、新たに加わった連結子会社の業績が新型コロナウイルス感染症による影響を受けており、営業利益は450百万円、まん延防止等重点措置に関わる営業時間の短縮要請協力金及び雇用調整助成金などの営業外収益を加え、経常利益は642百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は307百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

機能性を表示できるダイエット関連製品の受注が堅調に推移いたしました。また、外出を控える高齢者の運動不足等による健康ニーズの高まりにより関節ケア製品の受注も堅調に推移いたしました。一方、誇大広告等への規制強化により、機能性表示食品ではない一般の健康食品の販売では広告宣伝を控える傾向にあり受注が鈍化しております。学術面においては、他社との差別化を目的に、オリジナル原料の開発に注力しており、その過程において富山大学和漢医薬学総合研究所との共同研究の研究成果が米国科学誌に掲載される等、大学とも連携を図り進めております。

・自社製品販売部門

通信販売は、WEB広告等の販売促進活動を強化しました。海外販売は、既存顧客における美容商材の受注が好調を維持しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大が販売促進活動に影響しております。イスラム圏での売上拡大を図るため、ハラール認証取得の準備を進めております。店舗販売は、不採算店舗の撤退など店舗数の減少及びオミクロン株感染拡大による来客数の減少等が影響しておりますが、感染防止対策を講じたうえで催事や相談会等を実施しました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高7,593百万円、営業利益992百万円となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活習慣改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばしたほか、一般用医薬品のOEM受注が増加した影響が加わり、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が871百万円（前年同期比114.9%）、営業利益84百万円（前年同期比136.9%）となりました。

(百貨店事業)

当期より、㈱さいか屋(証券コード:8254)の第2四半期累計売上高2,274百万円を取り込んでおります。従来の会計基準では7,242百万円(前年同期比85.39%)に相当します。

昨年5月26日、㈱さいか屋株式の過半数(議決権の所有割合50.36%)を取得し連結子会社化いたしました。横須賀店はコロナワクチン接種会場として利用頂いており、入店客数の増加に繋がっております。また、10月20日、横須賀店にカラオケ・ダーツ・e-スポーツのフロア「娯楽の殿堂さいか屋eSTAGE」、美と健康ショップ「サロン・ド・AFC」、100円ショップ「セリア」を新規オープンし、お客様に喜ばれる百貨店になるよう積極的に先行投資を続けております。営業面では、歳暮ギフトやおせちの好調に加え、衣料品・服飾雑貨の秋冬物シーズン需要が好調に推移しました。今後、連結化によるのれんの償却を含め黒字化を目指し、より一層の経営改善に努めてまいります。

以上の結果、一部に回復の傾向がみられるものの、百貨店事業の業績は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高が2,274百万円、営業損失121百万円となりました。

(飲食事業)

昨年6月1日、㈱なすび株式100%を取得し連結子会社化いたしました。10月上旬に近江牛焼肉レストラン「すだく」、10月下旬に回転寿司店「一富士丸」、11月中旬にベーカリーカフェ「GALLEY(ギャレイ)」を新規出店し、先行投資を行っております。今後、連結化によるのれんの償却を含め黒字化を目指し、より一層の経営改善に努めてまいります。

以上の結果、飲食事業の業績は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高が441百万円、営業損失190百万円となりましたが、営業外収益として、まん延防止等重点措置に関わる営業時間の短縮要請協力金及び雇用調整助成金などがあり、経常利益はプラスとなりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ328百万円減少し、15,523百万円となりました。この減少要因は主として、受取手形及び売掛金が366百万円増加した反面、流動資産のその他が219百万円、原材料及び貯蔵品が144百万円、商品及び製品が135百万円、仕掛品が104百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ467百万円増加し、20,367百万円となりました。この増加要因は主として、減価償却等により有形固定資産が60百万円減少、のれんの償却等により無形固定資産が100百万円減少した反面、投資その他の資産が629百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ24百万円減少し、11,778百万円となりました。この減少要因は主として、契約負債が1,396百万円、短期借入金が増加した反面、流動負債のその他が710百万円、商品回収損失引当金が633百万円、商品券が555百万円、未払法人税等が381百万円、支払手形及び買掛金が193百万円、ポイント引当金が63百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ164百万円増加し、11,454百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1百万円減少し、12,659百万円となりました。この減少要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が264百万円増加した反面、自己株買付により、純資産の部の控除科目である自己株式が172百万円増加したほか、新株予約

権が58百万円、資本剰余金が27百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ107百万円減少し、8,559百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は313百万円（前年同期1,715百万円の収入）となりました。

これは主として、法人税等の支払額613百万円などにより資金が減少した反面、税金等調整前四半期純利益560百万円、減価償却費428百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,201百万円（前年同期183百万円の支出）となりました。

これは主として、敷金及び保証金の回収による収入279百万円などにより資金が増加した反面、敷金及び保証金の差入による支出906百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出546百万円などにより資金が減少したものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は773百万円（前年同期272百万円の支出）となりました。

これは主として、長期借入金の返済による支出949百万円、自己株式取得による支出288百万円などにより資金が減少した反面、短期借入金の純増加額2,000百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2022年1月14日に公表の2022年8月期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,222,136	9,132,377
受取手形及び売掛金	2,244,682	2,610,753
商品及び製品	1,637,968	1,502,685
仕掛品	853,393	748,925
原材料及び貯蔵品	1,360,068	1,215,972
その他	594,534	374,703
貸倒引当金	△60,386	△61,588
流動資産合計	15,852,396	15,523,829
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,634,576	5,450,390
土地	9,333,625	9,547,509
その他(純額)	1,043,449	953,150
有形固定資産合計	16,011,651	15,951,051
無形固定資産		
のれん	1,491,664	1,415,168
その他	160,964	136,631
無形固定資産合計	1,652,628	1,551,799
投資その他の資産		
その他	2,255,121	2,884,365
貸倒引当金	△19,395	△19,595
投資その他の資産合計	2,235,726	2,864,770
固定資産合計	19,900,007	20,367,621
資産合計	35,752,403	35,891,451
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,966,799	2,773,135
短期借入金	4,989,624	6,120,450
未払法人税等	646,464	265,403
商品券	555,410	—
賞与引当金	196,726	182,638
商品券回収損失引当金	633,609	—
ポイント引当金	63,235	—
契約負債	—	1,396,508
その他	1,750,422	1,039,882
流動負債合計	11,802,291	11,778,018
固定負債		
長期借入金	9,691,252	9,860,428
役員退職慰労引当金	201,449	217,257
退職給付に係る負債	773,571	794,531
その他	622,922	581,963
固定負債合計	11,289,195	11,454,180
負債合計	23,091,486	23,232,199

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,438,494	2,411,378
利益剰余金	7,420,777	7,685,483
自己株式	△141,364	△314,052
株主資本合計	11,849,746	11,914,649
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△46,937	△62,842
為替換算調整勘定	7,701	15,430
退職給付に係る調整累計額	16,855	15,921
その他の包括利益累計額合計	△22,380	△31,491
新株予約権	90,138	31,208
非支配株主持分	743,413	744,885
純資産合計	12,660,917	12,659,252
負債純資産合計	35,752,403	35,891,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
売上高	9,150,832	11,188,992
売上原価	6,325,758	6,936,217
売上総利益	2,825,074	4,252,774
販売費及び一般管理費	1,809,074	3,801,826
営業利益	1,016,000	450,947
営業外収益		
受取利息	1,642	1,848
受取配当金	5,470	5,365
投資有価証券売却益	7,870	2,768
受取賃貸料	9,134	19,770
負ののれん償却額	281	—
役員退職慰労引当金戻入額	10,810	—
助成金収入	—	195,795
その他	4,265	19,890
営業外収益合計	39,476	245,438
営業外費用		
支払利息	15,502	30,616
投資有価証券売却損	3	5,113
賃貸費用	4,652	11,769
その他	9,027	6,127
営業外費用合計	29,186	53,626
経常利益	1,026,290	642,760
特別利益		
固定資産売却益	—	334
特別利益合計	—	334
特別損失		
固定資産除却損	181	67,921
減損損失	365	—
役員退職慰労金	—	8,346
その他	—	6,415
特別損失合計	546	82,682
税金等調整前四半期純利益	1,025,743	560,412
法人税、住民税及び事業税	314,358	237,720
法人税等調整額	△23,043	15,896
法人税等合計	291,315	253,617
四半期純利益	734,427	306,794
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△527
親会社株主に帰属する四半期純利益	734,427	307,322

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)
四半期純利益	734,427	306,794
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,361	△15,905
為替換算調整勘定	5,842	7,728
退職給付に係る調整額	△1,299	△933
その他の包括利益合計	17,904	△9,110
四半期包括利益	752,331	297,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	752,331	298,212
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△527

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,025,743	560,412
減価償却費	247,403	428,903
のれん償却額	△281	76,495
株式報酬費用	30,129	30,045
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,100	△14,088
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,081	—
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△4,520	15,808
受取利息及び受取配当金	△7,113	△7,214
支払利息	15,502	30,616
固定資産売却損益(△は益)	—	△334
固定資産除却損	181	67,921
助成金収入	—	△195,795
減損損失	365	—
売上債権の増減額(△は増加)	224,842	△365,258
棚卸資産の増減額(△は増加)	△262,140	383,845
仕入債務の増減額(△は減少)	210,762	△193,729
未払消費税等の増減額(△は減少)	2,971	202,070
その他	392,772	△240,709
小計	1,885,799	778,988
利息及び配当金の受取額	7,133	7,179
利息の支払額	△13,421	△31,836
助成金の受取額	—	172,420
法人税等の支払額	△163,515	△613,166
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,715,995	313,585
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△255,227	△546,320
有形及び無形固定資産の売却による収入	—	334
投資有価証券の取得による支出	△14,147	△155,376
投資有価証券の売却による収入	89,307	134,798
敷金及び保証金の差入による支出	△5,765	△906,684
敷金及び保証金の回収による収入	368	279,756
その他	2,000	△8,249
投資活動によるキャッシュ・フロー	△183,465	△1,201,740
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	2,000,000
長期借入れによる収入	—	250,000
長期借入金の返済による支出	△46,738	△949,998
自己株式の取得による支出	△152,796	△288,891
配当金の支払額	△139,971	△212,300
その他	△33,384	△25,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	△272,890	773,742
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,616	6,653
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,265,256	△107,759
現金及び現金同等物の期首残高	4,170,642	8,667,136
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,435,898	8,559,377

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,392,376	758,455	9,150,832
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,392,376	758,455	9,150,832
セグメント利益	1,266,664	61,832	1,328,497

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,328,497
全社費用(注)	△312,497
四半期連結損益計算書の営業利益	1,016,000

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
外部顧客への売上高	7,593,503	871,223	2,274,093	441,150	9,021	11,188,992
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,593,503	871,223	2,274,093	441,150	9,021	11,188,992
セグメント利益又は損失(△)	992,441	84,677	△121,536	△190,407	△12,090	753,084

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	753,084
全社費用(注)	△302,136
四半期連結損益計算書の営業利益	450,947

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べ、当第2四半期連結累計期間の「ヘルスケア事業」の売上高及びセグメント利益は3百万円増加し、「百貨店事業」の売上高は4,976百万円の減少、セグメント損失は6百万円減少しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。